

豹はまたらの皮を 変えられるか？



Forever Friendship with God!!

永遠の友情の発見

混迷の世紀末、大世紀末を迎え

いよいよ新しい世紀、新しい千年期に向けてのカウントダウンが始まった

いま 来るべき未来に向けて私たちに希望はあるのか
揺るぎのない希望

それは変わることのない永遠の神と友情を結ぶことにある

愛の神は 今もあなたを愛し、あなたを求め

友情の手を差し伸べておられる

このカウントダウンシリーズは

一九九八年全世界に向けて放映された

ネット98セミナー（講師ドワイト・ネルソン牧師）より選ばれた10話からなる
本シリーズを通して、

読者が神との永遠の友情を結ばれることを心より祈るものである

豹はまだらの皮を 変えられるか？

ホームレスに戻った ファツシヨン・スター

アメリカのある大都市で、ヘ
ア・スタイリストたちが三日間
の全国大会を開催しました。ヘ
ア・サロンを経営する私の友人
もこの大会に出席したのですが、
彼の話によると、初日に一人の
参加者が一つの提案をしたのだ
そうです。その提案とは、すば
らしい髪型がどれだけ劇的に人
を変えられるか、モデルを使っ
て写真を撮り、全国的にPRし
よう、というものでした。よく
見かけるダイエツト食品の使用
前、使用後の写真のようなもの
を撮って、大々的に配ろうとい
うわけです。

大会がその案を承認したので、

さつそくモデル探しを始め、呑
んだくれのホームレスの男性に
白羽の矢が当たりました。髪も
顔も汚れ、体中からひどい臭い
がしているような男です。なん
とか彼を説得すると、大会が行
われているホテルに連れて行き、
まず変身前の写真を撮りました。
それから風呂で彼の体や髪を洗
い、散髪をして髪型を整え、ヒ
ゲを剃り、化粧品をつけ、最後
に新品の服を着せたのです。
会場の報道陣はすぐにこの男
性の写真を撮ると、マスコミを
通じて全国に報道しました。確
かに、前と後では目を見張るほ
どの違いがありました。

さて、大会が終わって一週間
ほど経ち、地方新聞の記者が、
一躍ファツシヨン・スターにな
ったこの男性のその後を取材し
ようと思いついたのです。そこ
でこの紳士を探しに出かけまし
た。彼はどこにいたと思います
か？ 実は、一週間前と同じ通
り、同じ貧民窟くにいたのです。
無精ヒゲがもとのように生え、
一週間前には新品だった服も、
食べ物や酒や通りのほこりがこ
びりついてすっかり汚くなって
いました。いったいどうしてこ
うなってしまったのでしょうか？

旧約聖書の中にこのような言
葉が記されています。

「クシュ人は皮膚を／豹ひょうは
まだらの皮を変ええようか。／
それなら、悪に馴ならされたお前



たちも／正しい者となりえよ
う」(エレミヤ書一三章二三節)

大会のスタイリストたちは、

ホームレスの男の外見を変えることはできませんでした。しかし、男の内面、つまり心を変えることはできなかったのです。実のところ人間は、他人の心はもろろんのこと、自分の心さえ変えることができないのです。心が変わらなければ、生活は変わりま

人生における最も重要な質問

まだらの皮を持つ豹についての真理と直接関連する聖書のお話を三つ、これから見てゆきましょう。最初のお話は、いままさに自殺しようとしていた男の話です。

さて、キリスト教の普及に尽くしたパウロとシラスが、ある日祈りの場所へ行く途中、占いの霊に取りつかれている女奴隷

せん。これこそ、まだらの皮を持つ豹に関する真理なのです。

私たちは自分自身の心も、他人の心も、自らの力で変えることができません。心を変えることができれば生活も変えられませんが、まして魂を救うことなどでははしないのです。

に会いました。彼女は、占いをするのでローマ人の主人に多くの利益を得させていたのです。そして、パウロとシラスの後について行って、「この人たちはいと高き神しんの僕しもべで、皆さんに救いの道を宣のたまべ伝えていたのです」(使徒言行録一六章一七節)と狂ったように叫びました。これは、悪意に満ちた陰謀でした。

豹はまだらの皮を 変えられるか？

こんなことが何日も繰り返されたため、たまりかねたパウロは、「イエス・キリストの名によつて命じる。この女から出て行け」（同一八節）と、彼女に取りついている霊に向かつて命じたのです。天国で墮落し、反逆するようになった天使ルシファアを思い出してください。彼には手下が大勢いて、歴史上のあらゆる人間を悩ませてきました。そして悲しいことに、ある人々はこの墮落天使や悪鬼に自分を明け渡し、取りつかれてきたのです。

さて、その女から悪霊が出て行つてしまったので占いの商売はあがつたりです。腹を立てた彼女の主人は、「町を混乱させている」という理由で、パウロとシラスを役人に引き渡します。

その役人は、「何度も鞭で打つてから、二人を牢に投げ込み、看守に厳重に見張るように命じ」（同一三節）しました。ローマの律法によると、牢の看守は囚人たちを見張る責任があり、万一人が逃走すれば、死をもつてその責任を取らされることになっていました。

すると真夜中になつて、突然大地震が起こり、牢の扉が開き、囚人たちを縛っている鎖も外れてしまったのです。これは明らかに超自然的なできごとでした。「目を覚ました看守は、牢の戸が開いているのを見て、囚人たちが逃げてしまったと思ひ込み、剣を抜いて自殺しようとした」（同一七節）とあります。日本という「切腹」をしようとしたのです。

そのとき、暗闇の中からパウロが叫びます。「自害してはいけない。わたしたちは皆ここにいる」（同一八節）と。看守は

実のところ、人間は、
他人の心はもちろんのこと、
自分の心さえ変えることが
できないのです

明かりを持って牢の中に飛び込むと、パウロとシラスの前に震えながらひれ伏し、二人を外に連れ出して言いました。「先生方、救われるためにはどうすべ

信仰は知的な同意ではない

必ずしも同じような言葉ですべての人が表現しないかもしれない、あるいは永遠に生き続けたい、と願っているのではないのでしょうか。ですから、この全人類の最も重要な質問に対する説得力のある真理、解答を、どうしても私たちは発見しなければならぬのです。

看守の切実な質問に対して、パウロとシラスはこのように答えました。「主イエスを信じな

きでしょうか」(同二九節)

ここで、人生における最も重要な質問がなされたのです！「救われるためにはどうすべきでしょうか」

さい。そうすれば、あなたも家族も救われます」(同三二節)

しかし、「信じる」とは一体どういうことを意味するのでしようか？ まず聖書は、次のようなことは「信じる」とは言えない、と教えています。ヤコブの手紙二章一九節に、「あなたは『神は唯一だ』と信じている。結構なことだ。悪霊どももそう信じて、おののいています」と記されています。悪魔も神を信じているのです。しかしその信

仰によって、彼は自己破壊的な激情から救われたりはしませんでした。

パウロとシラスの後を追い回した女奴隷に取りついていて悪霊も、明らかに神を信じていて、そのことを女に叫ばせては二人を困らせました。ですが、その信仰は彼女の辛い人生に何ももたらしませんでした。なぜでしょうか？ その信仰は、単なる知的な信仰、知的な同意にすぎなかったからです。このようなものは、それ自体何も生み出しませんし、何の変化も与えません。

たとえ、電気というものを信じていたとしても、私たちがその信仰をもってスイッチを入れない限り、電気はつきません。自分の信仰のとおりに行動しな



い限り、その信仰は無意味な
です。

信賴し、行動する

「私は、ナザレのイエスが実在したことを確かに信じています。彼は二〇〇〇年前に生きていた本当の善人でした。そして、人間の心を高めてくれる素晴らしい道徳的教えを残しました。それは歴史が証明しています。ええ、私は彼を信じていますと……」。こうした言葉をイスラム教徒や、仏教徒や、ヒンズー教徒や、無神論者からさえ、私は聞いたことがあります。

とを意味するのでしょうか？
微生物学者からオックスフォード大学の神学者になったアリスター・マクグレイスは、その著書『知識人は神を必要としな——現代の神話』という本の中でこの質問に答えようとしています。彼によれば、信仰（信じること）は発展的定義を持つものであるといえます。

まず信仰とは、ある物事が真実であることを信じることです。悪魔が持っていたのはこの種の信仰です。彼は神の存在を固く信じています。悪魔は神とともにいましたし、その現実を知っています。同様に、私たちも「神を信じます」と言うことは



できますが、それは「私は神が存在することを信じます」というような意味です。これが知的同意の段階の信仰なのです。

しかし信仰には、もう一つの

段階、信頼の段階があります。友だちを信じるとは、友だちを信頼するという意味です。飛行機のパイロットを信じるとは、パイロットの手に自分の命をまかせることを意味します。あるいはまた、私たちは一つの政党を信頼することができます。そして、その政党の候補者に投票することで、その信頼をあらわすのです。信頼——それは信仰の重要な一面です。が、それだけではまだ不十分です。

ただ一つの道、ただ一つの名

マクグレイスは、信仰についての聖書的考えは、日常用語にはない一つの特異な要素を含んでいる、と述べています。信仰とは神の約束をつかみ、その約束が与えるものを受け取ることである、と彼は言うのです。言い換えれば、神の救いの約束を信じ、その約束を信頼するだけでなく、私たちがその約束に応じて行動すること。この行動がなければ、救いを得ることはできない、というのが彼の主張です。

心の底から発せられた看守の質問に答えて、パウロが「主イエスを信じなさい」と言ったとき、彼は知的同意以上のことを意味していたのです。パウロは、

この看守が救い主であるイエスを個人的に深く信頼し、しっかりとつかむようにと説いたのでした。

パウロは、同じ使徒言行録に

豹はまだらの皮を 変えられるか？

おいてペトロが以前語った言葉
をくり返したに過ぎません。ペ
トロはこう言いました。「ほか
のだれによっても、救いは得ら
れません。わたしたちが救われ
るべき名は、天下にこの名のほ
か、人間には与えられていない
のです」（使徒言行録四章一二
節）。ペトロは、だれのことを
話しているのでしょうか？ 一
○節を見ましよう。「あなた
がたもイスラエルの民全体も知っ
ていただきたい。この人が良
くなって、皆さんの前に立って
いるのは、あなたがたが十字架に
つけて殺し、神が死者の中から
復活させられたあのナザレの人
イエス・キリストの名によるも
のです」（同一○節）

エルサレムの神殿の周囲でよ
く知られていた足の不自由な物

乞いは、ペトロによって、ナザ
レのイエスの名において癒いやされ
たばかりでした。ペトロは当局
者たちに向かい、この名前こそ
人類を救うことのできる唯一の
救い主の名前である、と告げた
のです。その名は釈迦しゅうかでも、孔
子でも、マホメットでもないの
です。人類が救われるべき名は、
イエス・キリストという名のほ
かにはないのです。

どうしてこのようなことが言
えるのでしょうか？ イエスご
自身の言葉に耳を傾けてくださ
い。「イエスは言われた。『わた
しは道であり、真理であり、命
である。わたしを通らなければ、
だれも父のもとに行くことがで
きない』（ヨハネによる福音書
一四章六節）。彼は、ご自身が
亡くなる前夜、この言葉を弟子

たちにお語りになりました。相
対的な世界の中で、この言葉は
絶対的な真理として慰めを与え
てくれます。

私の仏教徒の友人が、世界中
の人間の願いは結局一つなのだ
ということをも、よく知られてい
る比喩で教えてくれました。そ
れは、山道はいずれも山頂に到
達する、という比喩です。人生
という登山において私たちはど
の道を選んでも構わない。なぜ
なら、どの道を選んでも私たち
は山頂へ行き着くことができる
のだから、という意味です。つ
まり、あらゆる宗教は同じ神の
もとへ私たちを導くのだ、と言
っているのです。

しかし、どうしてこれが本当
だと言えるでしょうか。そもそ
も、世界の宗教のあるものは無

神論で、神を全く信じていないのです。すべての道が山頂に続くのではありません。一つの道しかないのです。ただ一つの名前しかないのです。墮落した人類を救ってくださるお方は、ただ一人なのです。

なぜ彼が唯一の道なのでしょうか。ヨハネによる福音書にはこうあります。

『あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父も知ることになる。今からあなたがたは父を知る。いや、既に父を見ている。』フィリポが『主よ、わたしたちに御父をお示し

ください。そうすれば満足できません』と言うと、イエスは言われた。『フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっているのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、「わたしたちに御父をお示しください」というのか』(一四章七〜九節)

イエス・キリストこそ、命に至る唯一の道なのです。なぜなら、地上の歴史と地上の宗教の中で、唯一彼だけが人間の肉体をとられた神、「私たちと共におられる」インマヌエルのお方だからです。

すべてを捨て、イエスを取る

私は「信仰 (faith)」の意味を次のようにして覚えています

私は「信仰 (faith)」の意味

(表1参照)。

ほかの名前でも、ほかの道で

神の救いの約束を信じ、
その約束を信賴するだけでなく、
私たちがその約束に応じて行動すること。
この行動がなければ、
救いを得ることはできない

豹はまだらの皮を 変えられるか？

表1

信仰 (faith) の意味は

Forsaking	捨てる
All	すべてを
I	私は
Take	受け取る
Him	彼を

もなく、私はイエス・キリストを唯一の希望、唯一の救いとして受け入れています。もし、読者のみなさんがそのようになさるなら、神はどうされると約束しておられるでしょうか。すでに何回か読んだ聖句ですが、ヨハネによる福音書三章一六節をもう一度見たいと思います。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るため

ある」

ここに神の救いの贈り物のすべてが記されています。それは、人類が昔から求めてきたもの、永遠の命です。平和と喜びに満ちた幸福な生活が、いつまでも続くのです。しかも、私たち人間の友だちになりたいと願っておられる神と一緒にです。救いは、イエス・キリストを信頼し、自分の生涯を彼に任せるすべての人に約束されています。

しかし、まだらの皮を持った豹の真理は、依然として真実です。私たちは自分の力で自分自身を変えられませんが、自分自身を救うこともできないのです。イエスも言われました。

「肉から生まれたものは肉である。霊から生まれたものは霊である。『あなたがたは新たに

生まれねばならない』とあなたに言ったことに、驚いてはならない」(同三章六、七節)

私たちは新しく生まれなければならぬのです。しかし、生まれかわる力は自分の内にはありません。初めの誕生においても、だれかがあなたを産んでくれたように、第二の誕生においても、どなたかにあなたを産んでいただく必要があります。その方こそ救い主です。救い主があなたを永遠の命に産み直してください。逆の見方をすると、救い主がいなければ、私たちは滅びるほかないのです！死から助け出してください。お方が、私たちには必要なのです。

「主イエス・キリストを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます」とは、この



ような救い主を信じて、受け入れることです。その決心をするのに、特別なものは何一つ必要

ではありません。読者のあなたが、静かに自分の魂の中でいま決心すればよいのです。信仰と

悔い改めなさい

使徒言行録二章を見ますと、ペトロの説教を聞いたエルサレムの人々も、「救われるためには、どうすべきでしょうか？」と質問しています。これが二つ目のお話です。

それは、エルサレムにおける祭りの日のことでした。誕生したばかりのキリスト教会は、信徒こそわずかなものの宣教の情熱に燃えていました。エルサレム中の人々が、野火のように燃え広がるこの集団をひと目見ようと集まってきたのです。たちまち三〇〇人以上にふくれ上

は、「すべてを捨て、私が彼（イエス）を取る」ことなのですから。

がった群衆の前で、大男ペトロが立ち上がり、イエスのことを話し始めました。

「イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた奇跡と、不思議な業と、しるしとによって、そのことを証明なさいました。……このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律

豹はまだらの皮を 変えられるか？

法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまつたのです。しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。……だから、イスラエルの全家は、はつきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主としてまたメシアとなさつたのです」(使徒言行録二章二二〜二四、三六節)

ここで再び、あの重大な質問が発せられたのです。「人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、『兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか』と言つた」(同三七節)。救われるために、どうしたらよいのですか？ この問いにペトロは答えます。

「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によつて洗礼を受け、罪を赦ゆるしていただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。この約束は、……わたしたちの神である主が招いていてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです」(同三八、三九節)

罪とは的を外すこと

あるいは、罪とは、「愛」という標的からはずれてしまうことだ、と言い換えることができるともしれません。実際、罪という言葉は、聖書が書かれていた「へブル語やギリシア語で「的をはずす」という意味なのでから。

どのパウロの答えと一緒に考えてみましょう。ペトロの答えは、「悔い改めなさい」というものでした。悔い改めるとは、どういうことでしょうか？ 簡単に言えば、罪を告白し、捨て去ることです。では、罪とは何でしょうか？ 罪とは法に背くこと。神との関係、他者との関係を傷つけ、破つてしまうことです。

以前、インドのマドラスへ私が行つたとき、現地の新聞でこんな悲しい記事を読みました。警察の報告によると、そのとき少年はナスの葉をちぎって、自分が飼っている山羊に与えていたそうです。ところが突然、隣の家の子羊が少年の家の庭に入



り込んできて、大切なナスの実を食べ始めました。少年は怒って、手にしていたナイフを侵入

してきた山羊に向かって投げつけたのです。ところが、そのナイフは的をはずれ、近くにいた少年の妹に命中して命を奪ってしまつたのでした。

罪がすることは、これと同じです。罪は的をはずし、側にいる無実の人を傷つけるのです。私たちの言葉、考え、行動——あらゆる罪が的をはずれ、家族を傷つけ、友人を傷つけ、隣人を傷つけます。ときには、自身自身さえも傷つけます。しかし、私たちの罪というナイフは、もう一人のお方に致命的な傷を負わせることを知らなければなりません。

そのお方が、イエス・キリストなのです。ペトロは言います。「キリストは」十字架にかかって、自らその身にわたしたちの

罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によつて、あなたがたはいやされました」（ペトロの手紙1 二章二四節）

ですから、悔い改めるとは、私の罪がイエスに死をもたらし、たということ認め、告白することを意味するのです。しかし、悔い改めとは、ひたすら辛く、ひたすら悪い知らせなのでありません。悔い改めとともにやつて来る、とても良い知らせがあるのです。

「自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます」（ヨハネの手紙1 一章

豹はまだらの皮を 変えられるか？

九節)

神は私たちに無償の赦しを与えてくださるのです。なぜだか

おわかりになりますか？ 神が、本質的に赦しの神であられるからです。

すべてを捨てて、イエスに従う

「救われるためには、どうすべきでしょうか？」 必死に救いを求める三つ目の話は、一人の金持ちの青年に関するものです。

ある日、金持ちで指導者的存在であった青年が、イエスのもとに走り寄って来て尋ねました。「先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか」（マタイによる福音書一九章一六節）。このような質問を投げかけるのに、イエスほど適任の人はいない、と思っていたのでした。

イエスはすぐにお答えになります。「もし命を得たいのなら、^{おきて}掟を守りなさい」（同一七節）。救われたいと願うなら、律法を守りなさい、というのです。読者のみなさんは、イエスのこのお答えに驚かれましたか？ 律法は神がお与えになったものであること、そしてその目的は私たちの人生のあらゆる関係の保護であったこと（第三話参照）を覚えておられる読者なら、決してこの答えに驚かないはずです。

しかし、青年の態度ははつき

み子を持つ人は命を持つ
み子を持たない人は命を持たない
これは単純な真理です

りしませんでした。彼は、どの律法ですか、と聞き返します。イエスは明確にお答えになりました。「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、父母を敬え、また、隣人を自分のように愛しなさい」(同一八、一九節)。つまり、十戒のことだ、というわけです。

すると青年は言います。「そういうことはみな守つてきました。まだ何か欠けているでしょうか」(同一〇節)と。そこでイエスは言われました。「もし完全になりたいのなら、行つて持ち物売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、私に従いなさい」(同一二一節)

この言葉を聞いた青年は、悲

しそうな顔をして去つて行きました。たくさんの財産を持つていたからです。彼はすでに一つ

イエスと 結ばれている人には命がある

何に従うか、あるいは、だれに従うか。この選択が、そのまま私たちの人生そのものになります。私たちは、二人の救い主、二人の神、二人の主人を持つことはできません。しかも、だれ(何)につき従うかは、私たちが自身が選ばなければなりません。ですから聖書は、最初から最後まで、すべての求める魂に向かつて情熱的に訴えているのです。神の救いと友情の贈り物を選ぶように、と。

「救われるためには、どうす

の神を持つていました。財産という神です。ですから、イエスに従つて行けなかつたのです。

べきでしょうか？」という質問とその答えを、聖書に記されている三つのお話の中で見てきました。看守には「イエスを信じなさい」という答えが、エルサレムの群衆には「悔い改めなさい」という答えが、そして金持ちの青年指導者には「イエスに従いなさい」という答えが、それぞれ与えられたのです。これら三つの答えの中心には、イエスの贈り物があることにお気づきでしょうか。カルバリの丘の十字架上で腕を広げ、私たち一



人ひとりを抱擁してくださる神の愛という贈り物です。

ヨハネの手紙1には、こう記されています。「その証しとは、神が永遠の命をわたしたちに与えられたこと、そして、この命が御子の内にあるということです。御子と結ばれている人には命があり、神の子と結ばれてい

ない人にはこの命がありません。神の子の名を信じているあなた

がたに、これらのことを書き送るのは、永遠の命を得ていることを悟らせたいからです」(五章一―一三節)

み子を持つ人は命を持つ。み子を持たない人は命を持たない。これは単純な真理です。

救い主を知っている家族

忘れられない瞬間があります。私の友人ノーム・トルビーが亡くなった瞬間です。

私がノームと最後に会ったのは、彼が生命維持装置につながれているときでした。ごく普通の心臓手術のはずでした。しかし、術後に危険な合併症が起ったのです。手術室に入っか

ら、彼が意識を取り戻すことはありませんでした。彼の妻アリと三人の子供たちは、集中治療室のベッドの側で徹夜をしていました。彼女たちがうつらうつらしかけたとき、担当医師が来て、ノームの脳波が失くなったことを知らせました。彼は人工呼吸装置によってかろうじて



生きているにすぎなかったのです。

深夜、私の家の電話が鳴りました。アリスの気丈な声が聞こえてきました。医師から悪い知らせがあり、家族が決断しなければならぬので、もしできれば私に病院へ来てほしい、という電話でした。私は急いで行きました。

避けられない決断をするまでに、数時間が経ちました。多くの祈りのあと、残されたノームの家族は、勧告に従って生命維持装置を切ります、と医師に告げたのです。家族と一緒に彼のベッドの周りに集まり、その死に立ち会った瞬間は、私がこれまで経験した最も微妙で厳粛な瞬間でした。

最後の別れを言い、技師が呼

ばれました。それから家族と私は手をつなぎ、静かに救い主に對する信仰の歌をうたい始めたのです。私たちがうたう中、技師が呼吸装置のスイッチを切りました。

ノームが自力でまだ呼吸をしているように思われました。が、それはほんの一呼吸で、やがて彼は静かになり、彼の生涯は閉じられました。ノームを愛していた家族は、なぜ信仰の歌をうたうことができたのでしょうか？ それは、家族がよく知っていたからです。愛する夫、愛する父親であるノームが、永遠の命を約束してくださった救い主を心から信頼し、そのように生きてきたことを。

救い主を持つ者は、命を持っているのです。

- 1 タイタニック 次は私たちか？
- 2 スター・ウォーズ 反逆者はだれだ？!
- 3 過去の文明はなぜ崩壊したのか
- 4 十字架上で破れた2つの心臓
- 5 豹はまだらの皮を変えられるか？
- 6 ダーウィンのブラック・ボックス
- 7 創造主からの時間の贈り物
- 8 あなたのルーツを心に！
- 9 11番目のシナリオ——希望はあるのか？
- 10 新しい祈り方——救い主を見つめて



著者 Dwight Nelson (ドウワイト・ネルソン)

東京で宣教師の息子として生まれる。米国アンドリュース大学神学修士、同大学神学院より博士号を修得。現在アンドリュース大学パイオニア・メモリアル教会の主任牧師、説教学の非常勤講師。著書多数。本稿の元になった Net98 セミナー（衛星放送による世界規模伝道集会）講師。

翻訳 山地明（やまじ あきら） SDA 都城キリスト教会牧師

校閲 文章工房・句読点

カウントダウンシリーズ 5
豹はまだらの皮を変えられるか？

1999年12月15日 初版発行

セブンスデー・アドベンチスト教団教会活動部

〒190-0011 東京都立川市高松町3-21-8

電話 042-526-6822

FAX 042-526-6301

 永遠の友情の発見
セブンスデー・アドベンチスト教団